

させじ、たゞ宮にその國を、あづけ奉らせ給ふよしの宣旨下りにければ、此家を内裏の如く造てすませ奉りける、家を宮などうせ玉ひにければ、寺になしたるを、竹芝寺といふなり、その宮の生み給へる子共は、臆て武藏といふ姓をえてなん有ける、夫より後、火たきやに女は、あるなりと語る、

附 江戸

江戸ハ武藏國ノ一部ニシテ、其地名ハ鎌倉幕府時代ヨリ既ニ史乘ニ見エタリ、蓋シ其名ノ漸ク世ニ知ラレシハ、康正年間、太田資持ノ居城ヲ此地ニ築キシ時ニ在リトス、然レドモ當時ハ疆域未ダ廣カラズ、人衆甚ダ密ナラズ、蕭條タル一漁村ニ過キサリシガ、天正年中、徳川氏封ヲ此ニ移シ、ヨリ、疆域日ニ廣マリ、戸口月ニ加ハリ、未ダ數年ナラズシテ、一大都會ト成レリ、既ニシテ、徳川氏天下ノ政權ヲ握ルニ及ビ、江戸ノ地ハ、四方輻湊ノ中心トナリテ、益繁榮ヲ加ヘ、丘陵ハ夷ゲラレ、海灣ハ填メラレ、萬戸忽ニシテ、田野ヲ覆ヒ、千帆常ニ河海ニ滿ツルヲ看ル、故ニ夙ニ山城ノ京都ト、東西相對峙シテ、私ニ江都若シクハ、東都ト號セリ、明治元年、王政復古シ、龍駕東幸スルヤ、爰ニ江戸ヲ以テ、帝都ト爲シ、詔シテ曰ク、江戸ハ東國第一ノ大鎮、四方輻湊ノ地、宜シク親臨シテ、其政ヲ視ルベシト、乃チ江戸ヲ改メテ、東京ト稱ス、實ニ皇國ノ首府ニシテ、今ノ東京市即チ是ナリ、

名稱

〔倭訓栞中編三〕衣江戶或荏土、風土記ニみゆ江ハ大河ヲ曰、江戶ハ戶口ヲ云、

〔武藏演路二〕江戶或荏土、風土記ニみゆ江ハ大河ヲ曰、江戶ハ戶口ヲ云、

江戸之號の事可成談に、江戸、水戸、坂戸、今戸、花川戸、杯云地名に多し、戶口に寄ての名なるべしと云々、或云、江戸の名至て古く、東鑑に江戸太郎重繼又重長、太平記に江戸遠江守とみゆ、

〔南向茶話〕或日例のごとく二三の友参りつどひ、古今の談に、或人問て曰、抑當御地を江戸と號し